

科目名 Course Name	開講年次	開講学期	曜日・時限
介護実習 Practicum of Care-Work	1年・2年	通年	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格	履修上の制限
10単位	実験実習	選択 (介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の学生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目			
介護福祉士関連科目			
同時に履修しておくことが望まれる科目			
介護福祉士関連科目			
担当者に関する情報			
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
久保由佳 和田晴美 森千佐子 新井文子	福祉棟2F	担当教員より説明します	授業中に指示します
授業の概要			
介護実習は臨地で利用者との関わりを通して、専門職となるために必要な「実践力」を養うための体験学習である。実習では各領域で習得した知識と技術の統合を図ることが求められる。さらに、介護福祉士の役割を理解し、自らの介護観を形成することが必要となる。			
授業の目標			
①利用者の自己選択と決定を尊重し、自立に根ざした介護の方法を選択できるようにする。 ②介護活動に参加し、基本的な日常生活援助に必要な生活支援技術を実践できるようにする。 ③生活場面での生活環境の改善と、福祉用具の知識を活用できるようにする。 ④利用者個々の生活リズムや個性を捉え、介護過程に沿った個別ケアを実践できるようにする。 その他、各実習の目的・目標は「介護実習の手引き」に記載されているので、確認すること。			
授業の方法			
臨地での体験学習である。実習施設の指導者、巡回担当教員の指導の下に実習が展開される。			
学習の成果（学習成果）			
①利用者の自己選択、自己決定とは何かを考えながら、介護の方法を選択することができる。 ②基本的な生活支援技術を行うことができる。 ③福祉用具についての基本的な知識を得て、活用することができる。 ④さまざまな生活の場における利用者個々の生活リズムや個性を捉え、介護過程を展開することができる。 ⑤地域における福祉施設の役割と機能を述べることができる。 ⑥関連する他職種と協力・連携しながら、チームの一員として行動できる。 ⑦介護の専門性を追求し、自己の介護観を明確にすることができる。			
授業のスケジュールと内容			
実習は2年間に450時間行う。			
実習の各区分および実施時期は以下の通りである。			
【1年次】			
4月：見学実習 介護老人福祉施設に行き、施設見学と利用者とのコミュニケーションをとる			
9月：基礎実習Ⅰ 介護老人福祉施設・介護老人保健施設およびデイサービス・デイケアでの実習（計10日間）			
2月：基礎実習Ⅱ 身体障害者施設、知的障害者施設等での実習（計5日間）			
2月：施設介護実習Ⅰ 介護老人福祉施設・介護老人保健施設等において、情報収集、生活支援技術の実践を行う実習（計16日間）			

1年次後期：居宅介護実習Ⅰ（訪問入浴） 訪問入浴車による入浴介護の見学（学内）および訪問入浴事業所において実習		
【2年次】		
9月：施設介護実習Ⅱ 介護老人福祉施設・介護老人保健施設等において、介護過程の展開を行う実習（計21日間）		
2年次前期：居宅介護実習Ⅱ（訪問介護） 訪問介護事業所において実習		
2年次後期：居宅介護実習Ⅲ（認知症対応型共同生活介護） 認知症対応型共同生活介護において実習		
*実習施設により若干の期間変更が生じる場合がある。		
*実習は介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、介護老人保健施設、身体障害者施設、知的障害者施設、小規模多機能型施設など、学校の指定する施設で行う。		
*実習毎にオリエンテーションおよび反省会を別途実施する。日程は決まり次第、連絡する。		
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他	100%	実習施設の指導者と担当教員の双方から評価する。それぞれの実習目標に応じて、生活環境の理解、利用者の理解、介護技術の実践、介護過程の展開、実習態度等の内容を評価する。詳細は介護総合演習の授業で説明する。
教科書と参考図書		
既習のテキストや参考書、各授業で配布した資料すべて活用する。		
履修上の留意点・ルール		
実習区分毎に履修し、すべての実習を終了したものに単位を認定する。 その他、授業態度、出席状況、課題提出状況などを総合的に勘案し実習を認めないこともある。 実習時期によってはインフルエンザなどの感染症が流行することもあるので、体調の自己管理を怠らないこと。		